

一般質問通告書

受領日時 令和 7 年 11 月 26 日 午前 1 0 時 5 3 分 6 番 氏名 佐沢 由佳子

質問項目	質問の要旨
1 クマ対策と安心安全な暮らしを守るには	<p>(1) 今年の秋田のクマの捕獲頭数は 11 月 19 日時点で 2000 頭をこえており、五城目町でも全員協議会の開催された 11 月 17 日時点で捕獲数 76 頭であった。捕獲以外にも猟友会に任せきりのクマの解体処理だが、場所の確保や洗い流す大量の水、要する時間、人員の確保を考えると大変負担が 大きいと考える。</p> <p>ジビエ処理加工施設を整備して、この災害とも言える現状を発想転換して、ジビエ料理や加工肉の販売など、町内で提供できる状態にしてはどうか。ジビエ処理加工施設名簿（令和 7 年 4 月 1 日現在）によると、全国ではジビエ処理加工所が 6 0 2 件そのうち秋田県は 3 件。イノシシやシカがほとんどでクマの加工所は、北海道 3 0 件を除くと青森 1 件、山形 1 件、秋田県北秋田市 2 件で加工所そのものが少ない。</p> <p>また、シカやイノシシなども北上してきており、クマ以外にも獣害には今後ますます悩まされることが予想される。</p> <p>1 1 月に視察に行った西栗倉村では、シカやイノシシのジビエ料理や犬用のシカジャーキーなど加工品にも力を入れているようだった。獣害対策も、その場しのぎの対策ではなく長期に続くことを視野に入れ整備すべき。加工所を開設したい民間などに施設整備費等補助する計画などはあるか。町としてクマや害獣のジビエ処理加工に関して推進するなどの考えはあるか。</p> <p>(2) クマの出没情報に関して、現在、クマダス・町の防災無線やメール・保育園小中学校のそれぞれの連絡媒体によって情報を得ることが多い。3 年前にクマの出没が多かった時も同じことを感じたが、発信元や情報がバラバラで共有されていないと感じる。小学校付近に出没した場合は、小学生の親は知っているが保育園や中学生のみの家庭では知らないことがあり、中学校付近のクマ出没情報は中学校からのメールで知り、小学生や園児のみの親は知らないという状況があった。それが自宅付近での目撃情報だった場合ぞっとする。学校側が保護者に対し</p>

	<p>てそれぞれに注意喚起をする必要はあると思うが、それ以外にも町の誰もが知りたいときに知れる形での情報提供が必要。</p> <p>町の公式 LINE を開設し、クマダスを連携させ目撃情報をクマダスに投稿することを推奨する方法がいいのではないかと考える。</p> <p>1 1 月 2 2 日のさきがけ新報によると、北秋田市の公式 LINE への登録者が 3000 人を超え、先月以降だけで 500 人以上が新たに登録しており、クマ出没情報の通知サービスを利用する動きが広がったという記事があった。ホームページやメールよりもさらに気軽に誰もがアクセスできる媒体の必要性を感じる。公式 LINE については何度か質問をしているが、今一度、公式 LINE の導入について町の考え、町長の公約にもあったがどのようにどこまで検討しているのか、進捗を伺いたい。</p> <p>(3) クマの出没により、散歩や屋外での運動が出来ない。外出を控えている。歩きや自転車での通学は出来ず車で送り迎えが必要、子どもを外で自由に遊ばせることが出来ない。との声が多数聞かれる。</p> <p>これから冬になり、クマが出没しないという確証もない。これは立派な災害であり、町としても対処しなければならない事案であると考え。さらに、雪が降り寒くなると、ますます運動の機会が減る。</p> <p>体育館や公民館のホールなど、貸し切りになってない時間帯を町民に周知し、開放してはどうか。</p> <p>運動の機会を増やしたり、孤立化を防ぐ対策を考えるべき。他市町村でもその動きは広まっている。町の考えと対策は。</p>
<p>2 人と地域のつながり支援について問う</p>	<p>(1) 養護老人ホーム森山荘では、入居定員 50 名のところ今までは少なくとも 90% ぐらいの入居があったが、今年度は 40 名を切っており利用者が不足しているとのこと。措置費のみで運営されているため大幅に入居人数が不足している今年度は大幅な赤字が予想されると聞いた。かつては、なかなか入居できない状況もあったと聞くが、入居者不足の要因はどんなところにあるか。養護老人ホームとは、現在の生活している環境や、経済的な理由から、自宅で生活するには困難な、おおむね 65</p>

歳以上の高齢者が入居できる老人ホームである。入居するには、役場の健康福祉課の窓口、包括支援センターへ相談して、申し込む。とあるが、高齢化率が高く一人暮らしも多い当町では対象者が全くいないとも考えにくい。民生委員や町内会長など町内の情報を熟知している人が相談に乗ったり、町に対象者をつなげたりといったことが今まではあったと思うが、見守り各機関へつなげることが出来る人の不足で見落とされている人がいるのか。それとも、入居対象者のニーズに変化があるのか。また、民間の介護施設でも利用者が不足していると聞く。そちらも対象者の減少によるものなのか、経済的理由による利用控えなのか。町としてどのように分析しているか。

- (2) 重層的支援体制整備事業は、地域住民の複雑化、複合化した支援ニーズや既存の制度の「はざま」にある課題に対応するため、町が包括的な支援体制を構築する事業で 1.対象者の属性に関わらず断らない相談支援 2.地域活動への参加を促し、人とのつながりや多様な社会資源へのアクセスを支援 3.福祉分野だけでなく地域全体を巻き込み、多様な主体による活動を促進する支援の3つの支援を一体的に実施することを必須としている。全員協議会で示された地域福祉計画では、既存の事業や実施主体が示されており、まずは基本となる事業実施主体となる団体や課の連携や相互的に相談話し合い出来る体制を強めることが必須である。

実施計画を進める中で、この連携を形だけではなく強固なものにしていきたい。その上で、福祉分野だけでなく各課の連携や町の民間の団体や施設などの協力や連携も不可欠であると考ええる。

重層的支援体制整備事業の実施に向け町としての意気込みを問う。

- (3) 福祉分野以外でも、乗り合いタクシー、朝市、みんなの学校、わらしべ塾、集落支援員による町中心部の個別訪問、みせっこ浅見内やJAに協力いただいている買い物支援など多岐にわたるメニューで生活支援や地域とのつながりを促進する活動が行われている。しかし、五城目町の面積の広さと点在する集落を考えると、町内会

	<p>の衰退や民生委員などの担い手不足、空き家の増加、高齢者の一人暮らしなど、人や地域とのつながりコミュニティの衰退が顕著である。そこで、令和6年6月の一般質問で「各地区公民館を利用した新たなコミュニティ作りを」ということで、各地区公民館を複合的な施設として利用するためにコミュニティセンター化し、そちらを活動拠点にして町民同士や各機関とつなぐコーディネーター的な役割を担う地域おこし協力隊もしくは集落支援員などの外部人材を数名配置してはどうかと質問していたが検討は進んでいるか。現在の検討の進捗状況と進まないとする理由を伺いたい。</p>
3 教育留学での親の居場所について	<p>(1) 教育留学が注目されており利用者はコンスタントにいるが、子どもは学校で過ごすものの一緒に来た親の居場所がないとよく聞く。それぞれの行動力やリサーチ力にもよるが、非常にもったいない状況ともいえる。県外から来ている方に五城目の魅力を伝えるチャンスであると考えている。滞在して観光するプランを提示するため、教育留学に来た親の目線に立ったパンフレットの作成や、来た方に町の良さをそれぞれPRしてもらえるような策を考えるなど教育課だけの問題ではなく商工観光の面でも注目すべきと思う。職人体験、農業体験、空き家移住体験など各課や民間にあるリソースと掛け合わせた体験メニューの開発もあればより充実し、観光や町の移住定住対策にもつながるのではないかと考えるが町の考えは。</p> <p>(2) 移動手段について、車で来る人はいいが、そうでない方もいる。子どもの集団登校の参加もクマの出没や雨の日、これからは雪の日は地元の子どもの親が送迎しているなど天候や状況に左右されることが多い。教育留学期間の子どもや親に関しての移動に乗り合いタクシーは利用可能か。案内した方がいいのではないか。</p>

<p>4 五城目高校の向上について</p>	<p>(1) 五城目高校の存続について、具体策として授業用 PC 購入支援、昼食支援、五城目高校教育振興会補助金の増額が示されていたが、高校側のその後の反応は。保護者や生徒からの評判やどんな反応があったか。それらは実際に五城目高校の魅力向上にどのように繋がったか。次年度の生徒募集の PR になるのか。</p> <p>(2) 魅力向上を目指して協議すべきと思うが、協議は続けられているのか。</p>
-----------------------	---